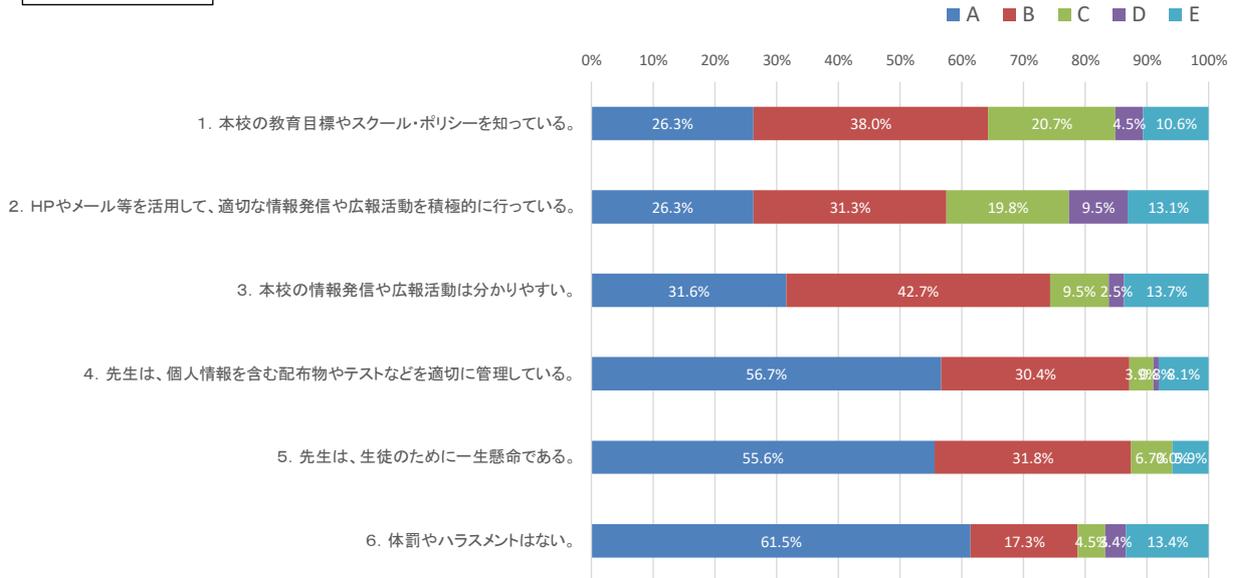


令和6年度 生徒を対象とするアンケート(7月実施) 結果

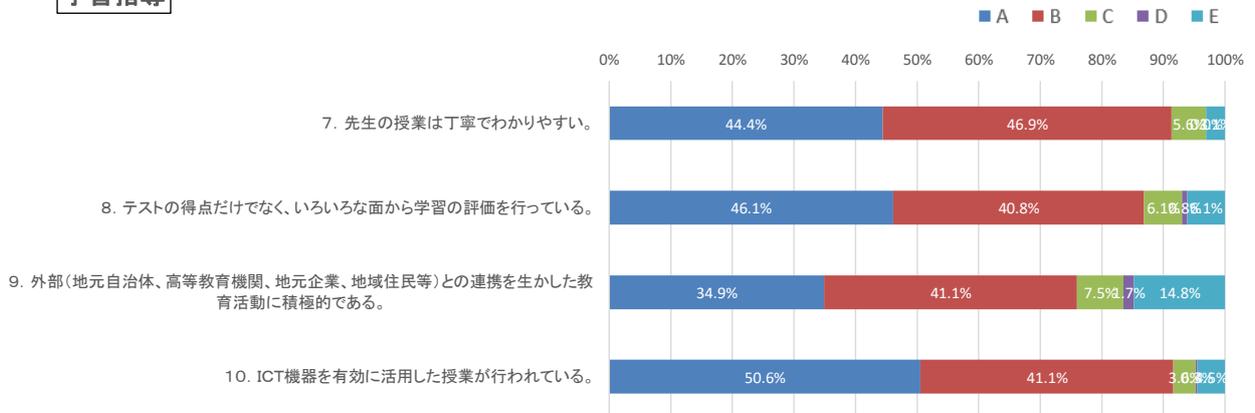
有効回答数358件(回答率96.5%)

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:全くあてはまらない E:わからない

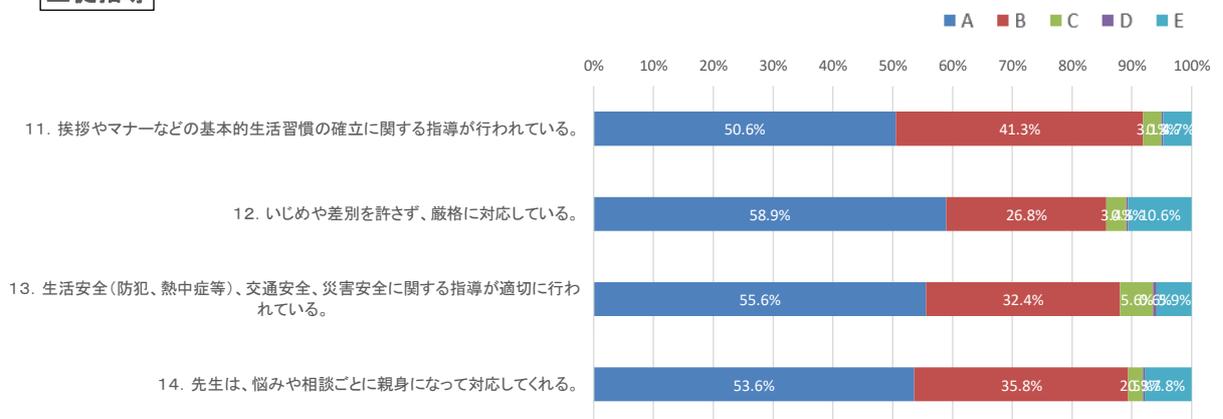
学校の活動全体



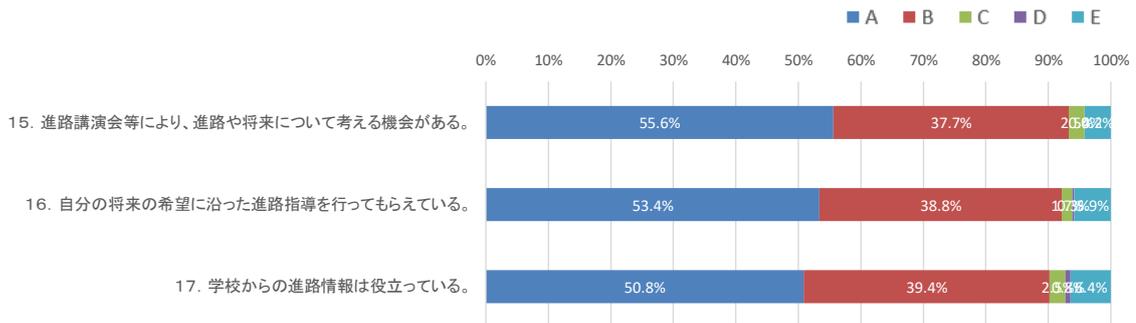
学習指導



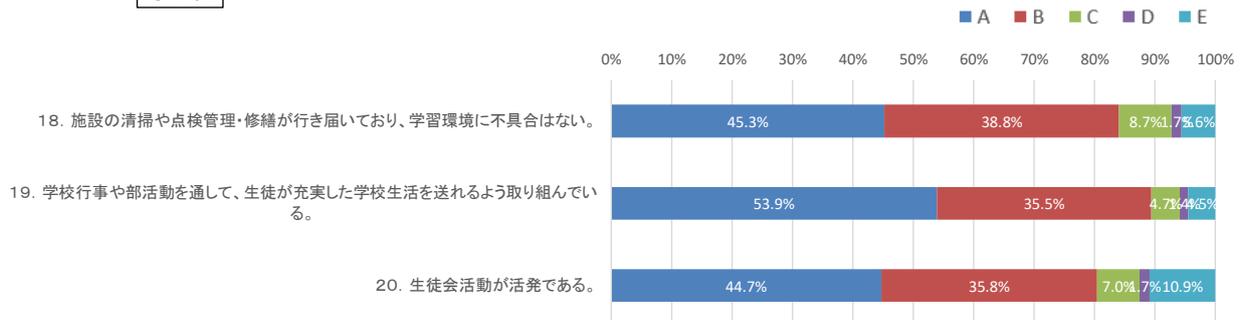
生徒指導



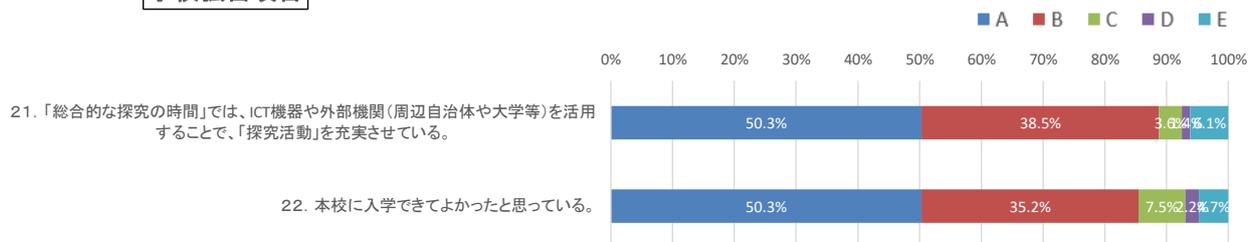
進路指導



その他



学校独自項目



【肯定的評価が90%以上の項目】

- 7. 先生の授業は丁寧でわかりやすい。(91%)
- 10. ICT機器を有効に活用した授業が行われている。(92%)
- 11. 挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている。(92%)
- 15. 進路講演会等により、進路や将来について考える機会がある。(93%)
- 16. 自分の将来の希望に沿った進路指導を行ってもらえている。(92%)
- 17. 学校からの進路情報は役立つ。(90%)

⇒進路指導のすべての項目について9割以上の肯定的評価を得ており、特に高い信頼が寄せられていることが顕著である。授業や生活習慣といった学校生活上の基本的な指導に対しても同様である。肯定的評価85%以上(300人以上)まで範囲を広げると全22項目中15項目が該当し、またそのほとんどの肯定的評価の割合が例年と比較して上昇していることから、より多くの生徒が学校生活を肯定的に捉えていることが分かる。

【肯定的評価が75%未満の項目】

- 1. 本校の教育目標やスクールポリシーを知っている。(64%)
- 2. HPやメール等を活用して、適切な情報発信や広報活動を積極的に行っている。(58%)
- 3. 本校の情報発信や広報活動は分かりやすい。(74%)

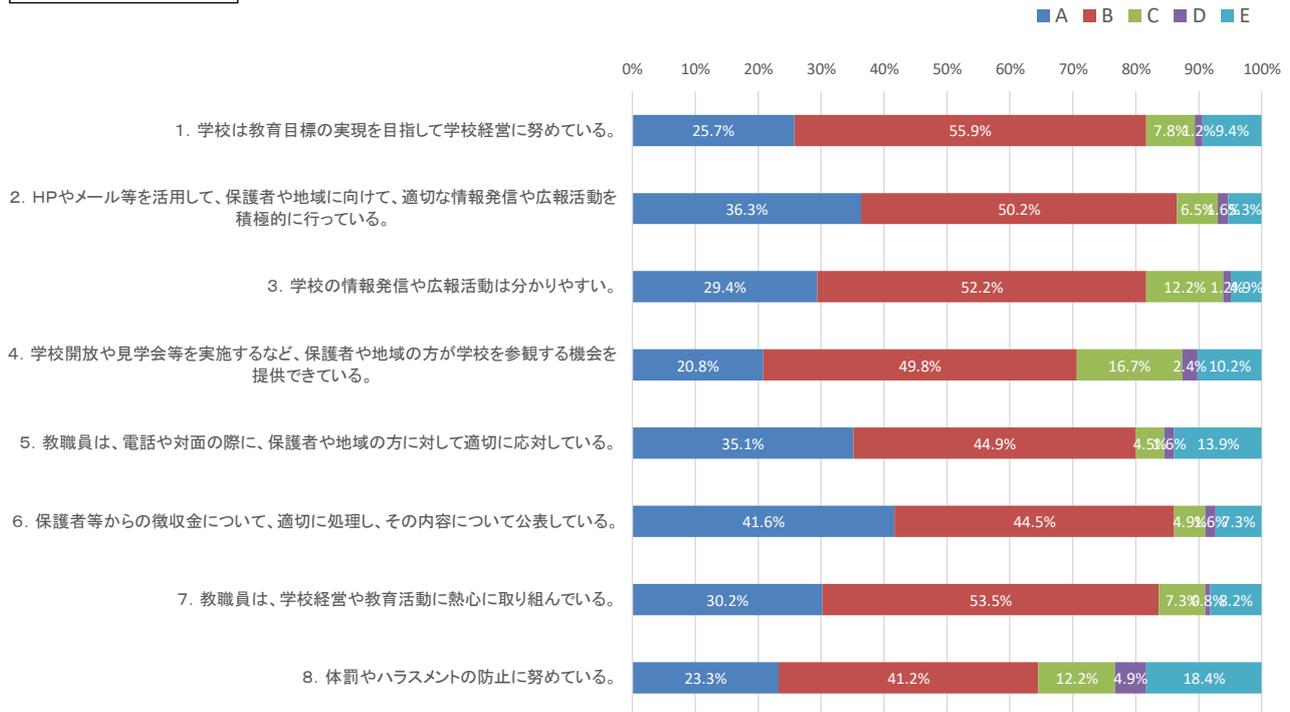
⇒該当する3項目中2つが情報発信・広報活動に関するものである。特に項目2は例年と対応に変化がないにも関わらず、肯定的評価が大きく下がっている。今年度から質問項目に変更があり、文言が変化した(令和5年度までの相当項目の文言は「本校は、通信やホームページ、一斉配信メールサービス(すぐメール等)を用いて、様々な情報を速やかに伝えている。」)影響なのか、それとも他の要因があるのか、検討が必要である。

令和6年度 保護者等を対象とするアンケート(7月実施) 結果

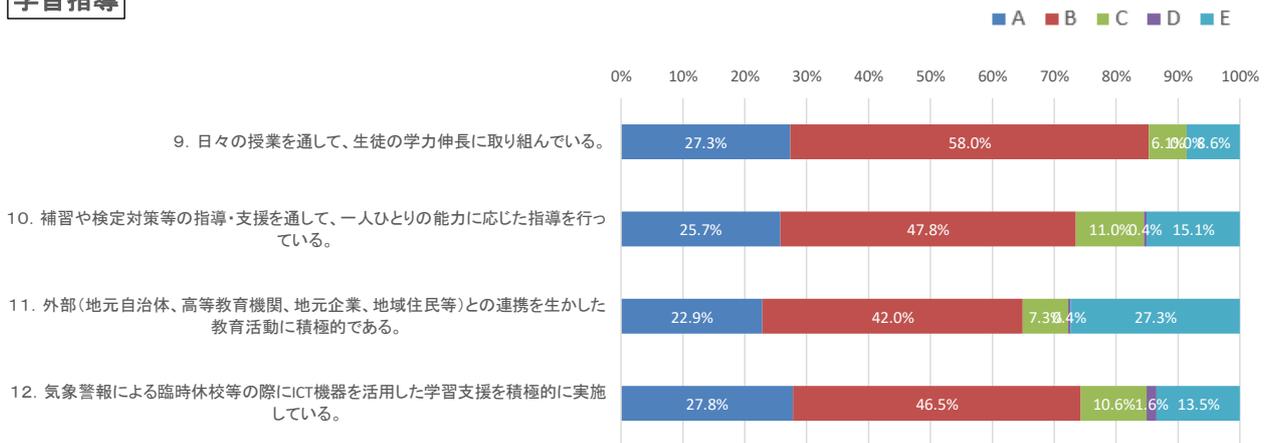
有効回答数244件(回答率65.8%)

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:全くあてはまらない E:わからない

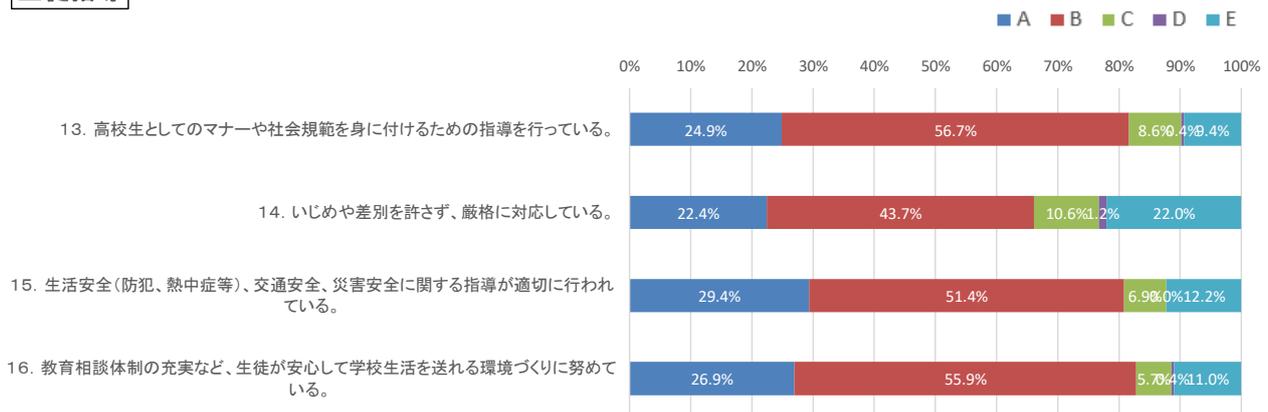
開かれた学校づくり



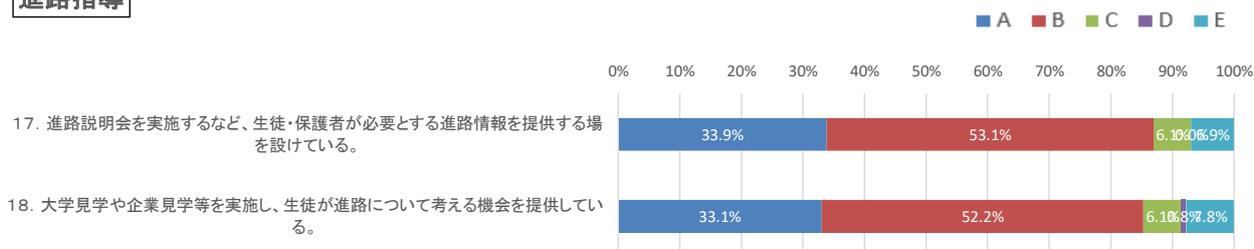
学習指導



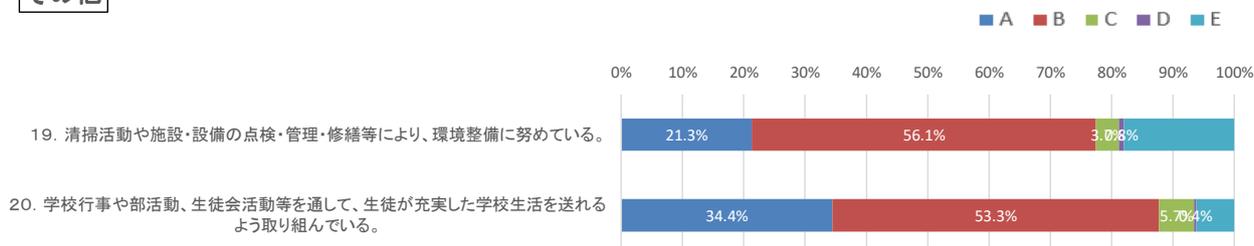
生徒指導



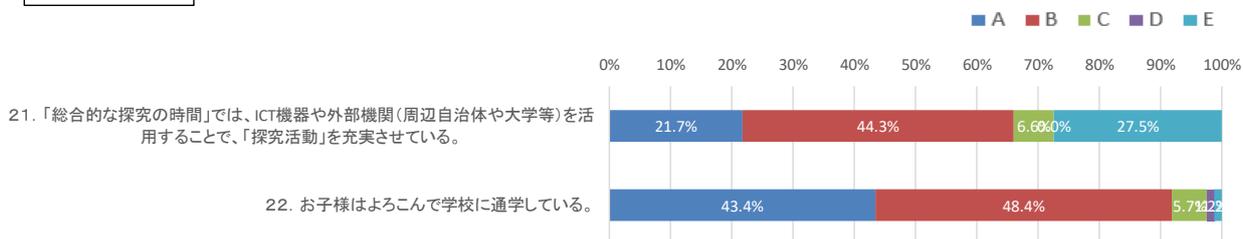
進路指導



その他



学校独自項目



【肯定的評価が90%以上の項目】

22. お子様はよこんで学校に通学している。(92%)

⇒今年度からアンケート項目や文言が変更になったため単純な比較はできないが、全般的に昨年度アンケートの相当項目とほぼ同様の結果となっている。中でも項目7「教職員は、学校経営や教育活動に熱心に取り組んでいる。」、項目9「日々の授業を通して、生徒の学力伸長に取り組んでいる。」、項目16「教育相談体制の充実など、生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりに努めている。」は、肯定的評価が昨年度から10%程度上昇している。

【肯定的評価が75%未満の項目】

- 4. 学校開放や見学会等を実施するなど、保護者や地域の方が学校を参観する機会を提供できている。(71%)
- 8. 体罰やハラスメントの防止に努めている。(64%)
- 11. 外部(地元自治体、高等教育機関、地元企業、地域住民等)との連携を生かした教育活動に積極的である。(65%)
- 12. 気象警報による臨時休校等の際にICT機器を活用した学習支援を積極的に実施している。(74%)
- 14. いじめや差別を許さず、厳格に対応している。(66%)
- 21. 「総合的な探究の時間」では、ICT機器や外部機関(周辺自治体や大学等)を活用することで、「探究活動」を充実させている。

⇒昨年度と比較して、項目4「学校開放や見学会等を実施するなど、保護者や地域の方が学校を参観する機会を提供できている。」の肯定的評価が10%以上下落している。項目14「いじめや差別を許さず、厳格に対応している。」(生徒アンケートでは項目12が相当)や項目21「総合的な探究の時間」では、ICT機器や外部機関(周辺自治体や大学等)を活用することで、「探究活動」を充実させている。」(同生徒アンケート項目21)など保護者と生徒間でアンケート結果に比較的大きな差が見られるものもあり、学校生活や学習内容等についてより積極的に保護者の理解に努めることが肝要であると思われる。